

# 国土地理院の広報リーディング・プロジェクト

総務部長 山本 健一

キーワード：G(技術)・K(広報)・K(教育)，広報戦略，リーディング・プロジェクト

## 1. はじめに

国土地理院においては、院の重要事項「G(技術)・K(広報)・K(教育)」の1つである広報に関して、昨年度後半から戦略的に取り組んでいる。

対外的には、「『国土を測る』意義と役割を考える懇話会 - 『伝える』から『伝わる』へ」を本年3月に立ち上げた。懇話会では、国土を測ること(すなわち測量)の意義・役割とそれを国民に適切に伝える方法について10人の有識者委員から御意見を伺っている。また、測量に携わる産学官の関係者とともに昨年12月に「広報推進協議会」を設立した。協議会では、関係者が連携した広報活動について検討している。

院内においては、広報戦略を昨年11月にとりまとめ、同戦略で定めたリーディング・プロジェクトを中心に積極的に広報活動を行っている。以下、リーディング・プロジェクトについて報告する。

## 2. リーディング・プロジェクトの背景

国土地理院は、明治2(1869)年に民部官の戸籍地図掛が設置されてから147年の伝統を有し、それを将来につなげている。そして、この間生み出された成果と技術を、本院(つくば)を中心に北海道から九州・沖縄までの組織により全国に波及させている。

これら時間的・空間的特性を活かしながら院の果たすべき役割「はかる、えがく、まもる」について国民の理解を深めていく。その実現を目的に、「職員一人ひとりが広報パーソン」となるべく広報戦略をとりまとめた。同戦略において、広報活動のシンボルとなるリーディング・プロジェクトを選定した。

## 3. リーディング・プロジェクトの内容

リーディング・プロジェクトは、3つのプロジェクト群から構成される。

### 3.1 「G(技術)・K(広報)・K(教育)」プロジェクト

：広報・教育両面から将来の技術者づくり

- ・インターンシップの開催  
学(測量・地図関連分野の学会)・産(測量関係団体)・官の連携により、地図と測量の科学館(つくば)で学生を対象としたサマースクール開催。
- ・電子基準点を設置している学校への出前授業  
《通称》学校へ行こうプロジェクト  
全国約1,300点の電子基準点のうち約600点が学校内にあることを活かし、職員が学校に出向く(→学校へ行こう)。児童生徒や教師に電子基準点の役割や測量の大切さを伝える。

### 3.2 スtock有効活用プロジェクト

：院の組織、施設等を積極活用

- ・電子基準点を設置している学校への出前授業  
《通称》学校へ行こうプロジェクト 【再掲】
- ・地図と測量の科学館(つくば)の積極活用  
地図・測量の役割を楽しみながら体験できる場として充実。地理・防災教育の場としても利活用。
- ・地元と連携した広報  
地方測量部等(全国10組織)ごとに、地元自治体・教育機関等と連携した取組を実施。本院(つくば)においては、石岡測地観測局(VLBIアンテナ等)を教育の場として活用。

### 3.3 基盤プロジェクト

：職員の能力を高め共通認識のもとで広報

- ・アピールポイントをまとめた資料を活用  
院の仕事のアピールポイントを5分で説明できる資料を作成。幹部を中心に職員全員が積極的に対外説明。
- ・広報パーソンの育成  
職員のプレゼン能力の向上。中級レベル以上のプレゼンターを育成。

## 4. リーディング・プロジェクトの成果

リーディング・プロジェクト選定から半年しか経過していないが、成果は確実に現れている。

【「G・K・K」プロジェクト】では、学校へ行こうプロジェクトの全国展開、【Stock有効活用プロジェクト】では、地図と測量の科学館の来館者の増加、【基盤プロジェクト】では、3つ折りリーフレット「『伝える』から『伝わる』へ」のシリーズ化、などが代表的な成果である。

## 5. 熊本地震における対応(まとめ)

国土地理院は、平成28年熊本地震の発生直後から被害状況や地殻変動の把握のために様々な観測、分析等を行った。成果については、災害対応に活かすとともに、ホームページ掲載や記者発表等を通じて早く・分かりやすい情報発信に努めた。結果、各種報道機関の協力を得て、国内外に広く情報が伝わったのではないかと考えており、広報の重要性を改めて痛感した次第である。

この経験も活かし、リーディング・プロジェクトを中心に、今後も職員一人ひとりが広報パーソンとなって積極的に広報活動を行っていききたい。